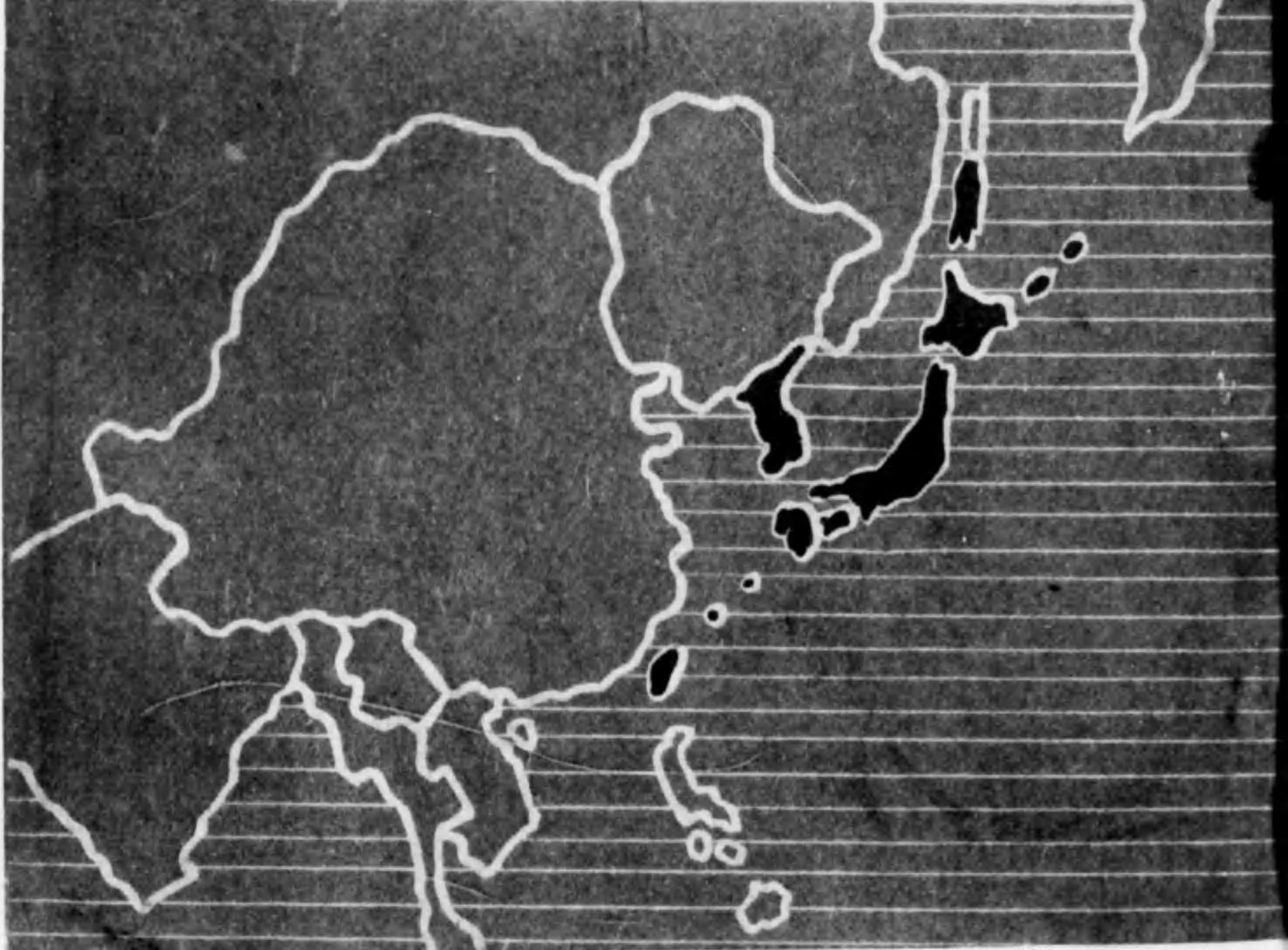
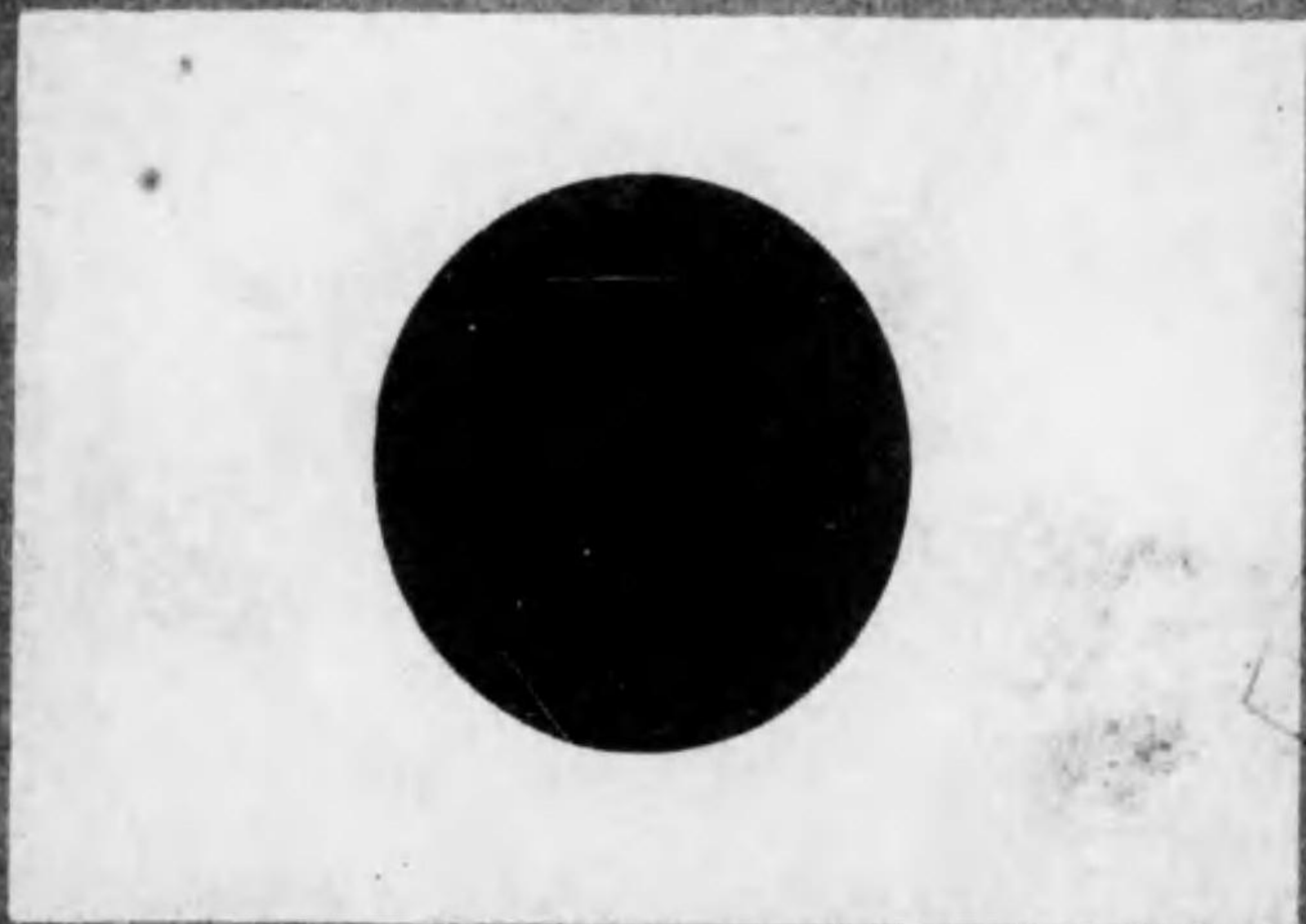


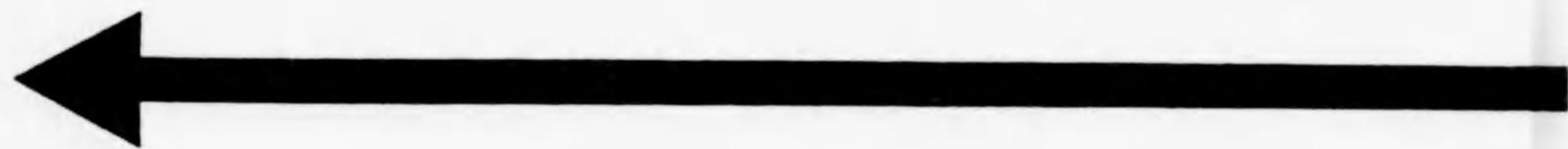
るなうどは本

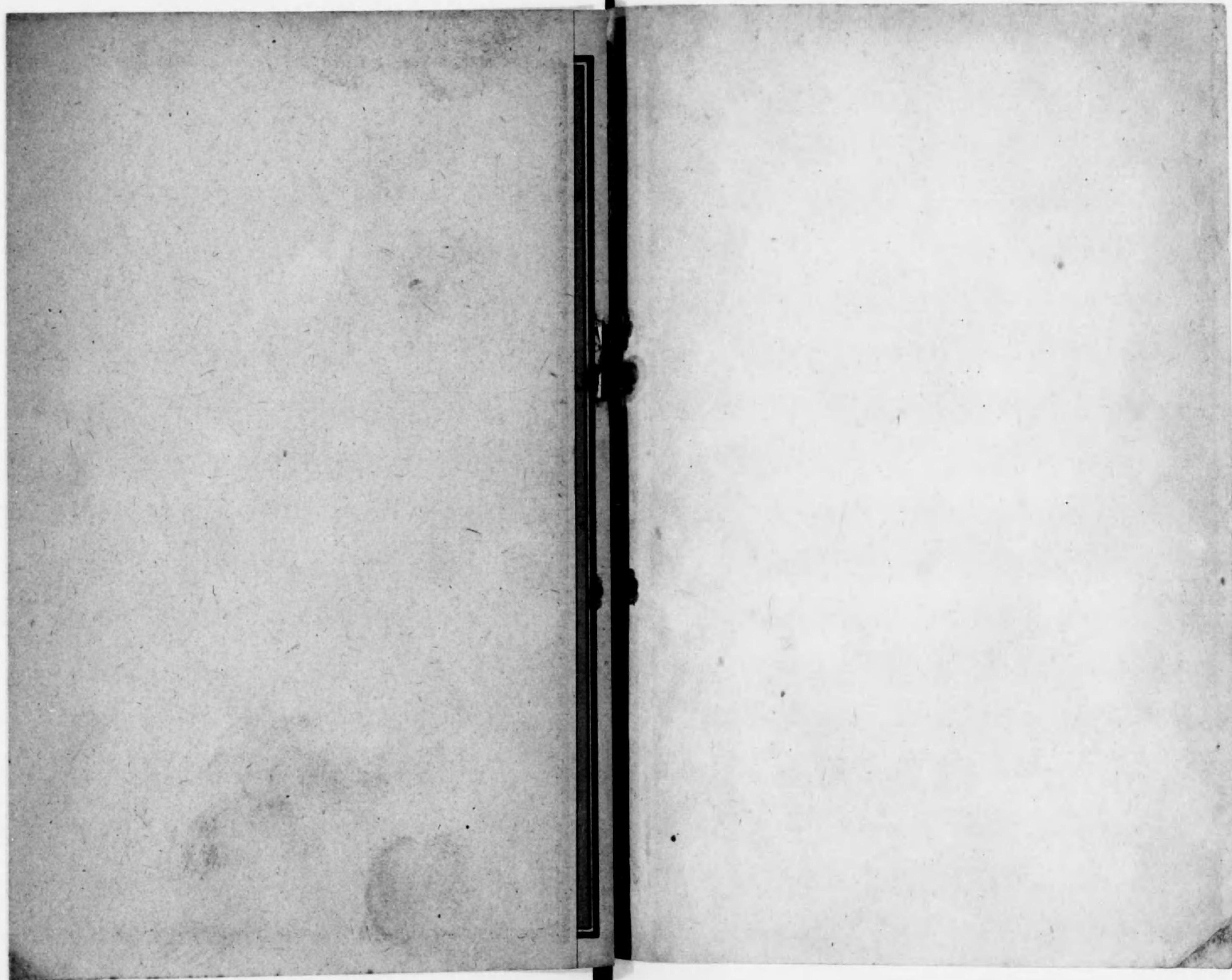
特254

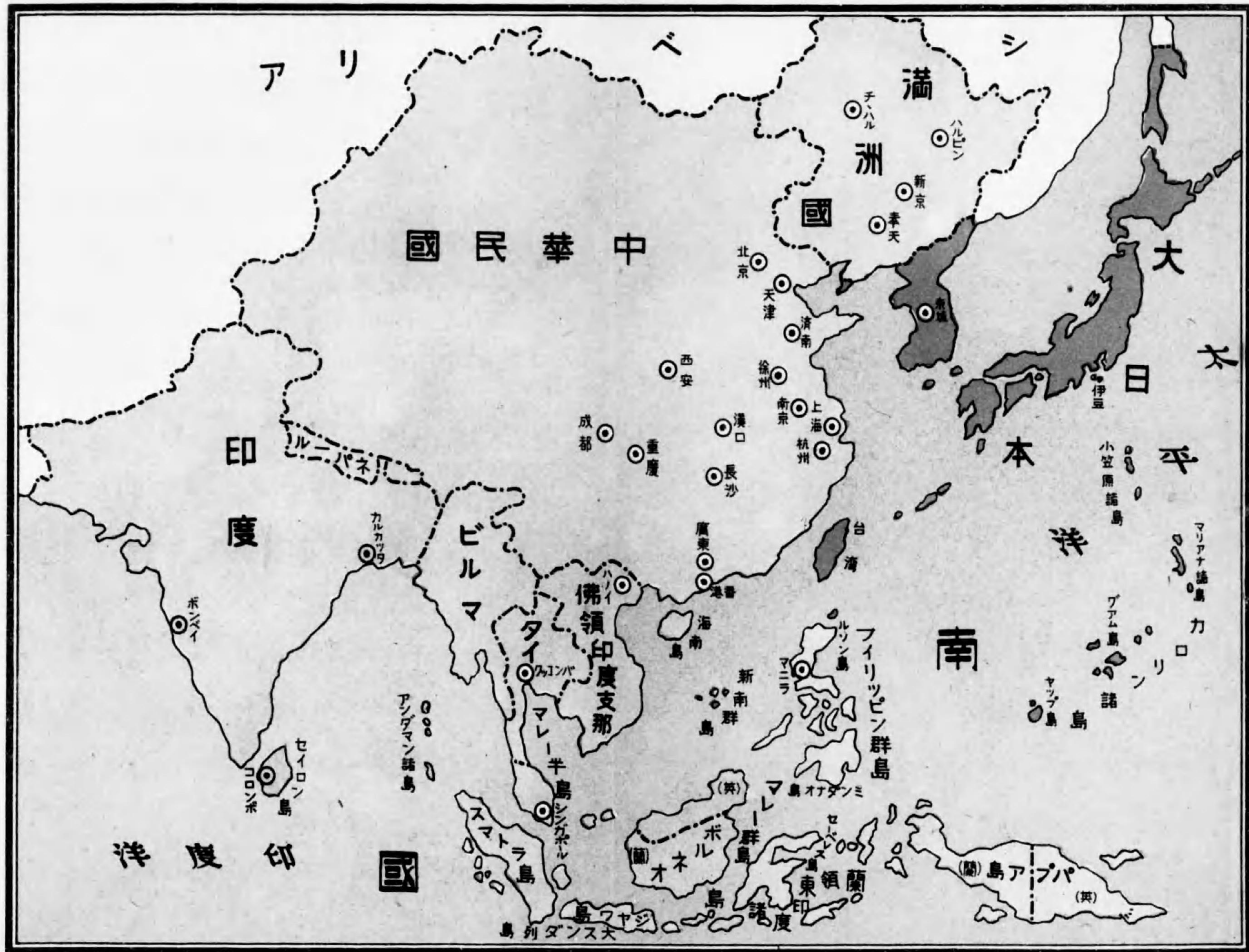
448



始







特254  
448

# 謹賀新年



著者

東京府警務委員會  
東京市警務委員會  
東京警務委員會理事員

山田竹治

# 謹 賀 新 年

本所區會議員 鈴木傳四郎

本所區會議員 上田彌佐吉

本所區會議員 藤原毛平

所得調查委員 吉田助次郎

神田區餌鳥町一

民政俱樂部  
法律顧問

辯護士

西村兼吉

電話淺草四三二〇  
市電豐島町下車

目次

一、日支事件と皇軍の戦果……………四

二、日本の行動は緊急避難權の行使のみ……………一六

三、援蔣第三國の過去を省みよ……………三五

四、英蘇は支那から手を引け……………三三

五、國民はどうすれば好いか……………四〇

六、日本は何處へ行く……………四九



はしかき

日支事件の現段階は、戦闘行為に於て大勝を博してゐるが、蒋介石の狙ふ經濟戦は漸くこれからだ。

經濟戦の進行につれて、その背後を蝕む思想戦が続いてその後から追ふてゆく、武力戦、經濟戦、思想戦、この三つの關門を抜いて後に始めて決定的戦争勝利の榮光は輝くのだ。

二  
今日日本は僅にその第一の關門にある、多難推して知る可く、經濟戰は國民が直接第一線に立つところである。銃後ではないここに深く自覺せねばならぬ。

國民的自覺は國民的正義觀から出發して始めて千鈞の重みをなす。それには今次聖戰たる所以を確乎り擲んでかゝらねばならない。

この短い余の所論の裡から日本國民の不動の信念を體得して戴けるなら欣幸これに過ぐるものはない。なほ歐

洲の戰雲は歐洲だけに止むか、止まぬとするなら、日本はごうすれば好い、八面敵性の裡に光榮ある孤立の位置にある日本、これを推進して行く世の識者に訴ふる所以のものは日本をごうもつてゆくのが適當であるか、その推進してゆく方面によつては、日本はごうなる、聊か卑見を述べて世の批判を仰がんごするものである。

昭和十四年九月二十日

山田竹治誌す



## 一・日支事件と皇軍の戦果

蒋介石の對日認識の錯覺は日支全面の大衝突となり、戦禍二ケ年有餘の長きに亘つて隣邦相食むの慘事を惹き起すに至つた。人類共存の大義に照しまことに遺憾の極みである。

凡そ謹むべきは一國の指導者達の輕卒なる態度である。一步を誤らば徒らに民衆を苦しめ、鮮血に國土を染めるものがある。

め、富を消散し、文明を破壊し其慘害蓋し測り知る可らざるものがある。

彼蒋介石は浙江の財閥と相結んで幾多の軍閥を倒し、巧みに遜文の三民主義を唱導して民心を繋ぎ、國內の統一に略ぼ成功したのであつた。

此の比較的順調に大業を遂げた餘影は施して以つてこれを對外的措置へと躍進したのである。即ち恫喝革命外交を採り、一舉實力手段に基いて在支外國權益の奪還を

企圖し、先づ英國の租界を襲撃、奪回する等、事毎  
に強硬手段によつて其目的を達成せんとしたのである。  
而して極部的には慥かに成功を遂げたと言つて可なりで  
あつて、蔣の得意想ふべしである。

然し、「人生事を成すは失意の時にあり、事を破るは  
得意の時にあり」とか、其蔣の得意が自制を失ひ小人遂  
に事を誤るに至つたのは惜む可きことであつた。即ち華  
府條約に於て、日本は英米の海軍比率より遙かに蹴落さ

六

れた事態を看取し、英米に依存し、日本打倒の國策を決  
したのである。仍て先づ民衆を教育するに排日を以てし、  
武力の充實するにつれて抗日を高揚し、遂に全支那を通  
じて抗日一色に塗りつぶれた感があつた。

何ぞ圖らん、蘆溝橋一發の硝煙を合圖として遮二無二  
日本打倒を強行せんとしたのが北支事件である。

日本は支那と戦ふ等とは何人も豫想だもしなかつたこ  
とで、極力局部解決を慫慂したにも不拘、頑として反省

七

するところなく、益々兵力の増強を斷行し、對敵行爲は  
本格化するに至つたのである。

而も日本は東亞善隣の友邦が相争ふの愚を戒め、理を  
盡し、義を盡し、極力不擴大方針を以て臨みたるにか、  
わらず、彼益々日本の眞意を了解せず、却つて日本の穩  
健なる態度を誤解し、果しなき戰禍を擴大するに至つた  
蔣を主班とする國民政府の責任は頗る重大と言はねばな  
らぬ。

而も自己の實力を過信し、日本與し易しとした錯覺は  
隨所に其破綻を曝露し、敗戦また敗戦、國破れて山河在  
りの悲壯なる詩人の述懐を如實に示すに至つたことは、  
自業自得とは言へ憐れにも亦悲惨である。

今や支那は百六十萬平方キロの土地を喪つた。これを  
歐洲の面積に求むれば、獨、佛、伊三國の合計總面積に  
相當し、日本の面積に比すれば其二倍半に達してゐるの  
である。

一國の産業の動脈をなすものは鐵道である。支那全土に亘る鐵道總哩數は一萬二千キロであるが、内九千キロ即ち全哩數の四分の三は日本軍の占領するところとなつた。

更に海港に至つては大小總數四十四港中、日本軍の占領下にあるもの大なるものは全部、大小合計二十港、封鎖二港であつて殘存二十港は言ふに足らざる小港のみである。而も北は山海關より南は佛領印度支那の國境に至

る鵬程 二千五百哩の海上は完全なる日本海軍の制壓下にあるのであるから、支那艦船の交通は絶対に不可能なるのみならず、艦船其のものさへ全滅してゐる有様である。

従つて支那の海外貿易は戦前の九十パーセントを失ひ僅かに其一割だけが隣接佛印を通じて行はれてゐるに過ぎない有様である。加ふるに、日本空軍の脅威は間斷なく隨所の殘存鐵路を爆破し、あらゆる軍事施設を破壊し

てゐる有様で空中權も亦完全に日本軍の制壓下に落ちてしまつた。

斯くて細り行く財政は將に破産に類し、對外借款に余命をつなぐ有様である。然も蔣介石は最後の勝利は吾にありと剛語しながら、今や所定めぬ浮草の如く轉々として居るに處なく、四川の奥深く敗慘の月を眺むるに至れるは敵ながら座ろに憐れなる態である。此大戦果は洵に天皇陛下の御稜威のいたすところなるは申すまでもな

きことなるも、忠勇義烈なる皇軍將兵の一死君國に報ずる奮闘の結果であると同時に、銃後國民の熱誠なる戦時協力の賜物である。

然し如斯世界歴史上稀に見る一大戦果を獲めたりと雖も、これを以て戦争の終息を考へることは斷じて早計である。

今次日支戦争の底を流るゝ重大なる原因は世界史的意義に根據することを見逃してはならぬ。即ち第一次歐洲

大戦後に取結ばれたるベルサイユ條約態制は實に不自然なる偽裝されたる平和に過ぎなかつたからである。

小數なる白人國家群が自國の榮達を基本としたる得手勝手（せいし）の勢力範圍を決定し、領土的、經濟的、我利排他的なものであつただけ聽ては之れを訂正せらる可き世界的運命の下にあつたのである。

蔣介石にして世界に通ずる此宿命的國際的動搖を豫見するの明があつたならば、進んで日本と協力し共に極東

の平和を確保すべきであつた。然るに前陳の通り蔣介石は却つて華府條約に描き出されたる一時の現象を見て直ちに日本を輕視し、協力に代ふるに抗日を以てし、世界動搖の口火を自國に求め、之れに點火した愚か者である。

従つて日支戦争、實は世界を通ずる大紛争の爆發口であるだけそれだけ、此日支戦争はこの程度で終息する譯はないのである。

從來世界動搖の口火は、獨佛國境のラインから始まるか、たゞしは又蘇滿國境からかと一般に取沙汰されてゐたものであるが、蔣介石は其火元を自國に求めたのだ。彼は正に一塊の武辯であつた。支那四億の民衆こそ氣の毒なものである。

## 二、日本の行動は緊急避難權の行使のみ

余はベルサユの體制訂正を根據とする世界動搖の宿命

性を説いた。

それは何であるか、少數なる白人國家群の自國本位なる偽裝的平和は、一面に豊滿なる所謂「持てる國」を建てた半面に生存に堪えざる「持たざる國」を造つたところにある。ここに必然的に「持てる國」の現状維持「持たざる國」の現状打破、此の生きとし生ける者との間に自然發生の生存權の確立運動は免れんとし得ない運命がある。

他國の事情を説くことは後日に譲ることにするか、一體日本はごうだ。

土地狭少にして人口過剰、天然資源に乏しく最早や商工立國轉換は必至の要求である。

然るに世界は少數民族によつて分割獨占せられ、而も嚴として「有色人種入る可らず」の移民禁制を斷行し、過剰人口のはけ口は無いのである。

移民を入れなくとも、商品を入れて呉れるなら其利益

によつて生きる道もある。即ち日本産業の轉換によつて商工立國を國策とし、之れによつて生計は立つが、世界的ブロック經濟體制は日本品の輸入を拒否し、幾度かの經濟交渉も到底日本の本旨は達せられなかつた。移民は禁止、物は購はない、一體日本はごうすれば好いのだ。このまま壓殺されてゆく事が神の前に正しい事か、如何に世界文化に貢獻する資格ある優秀な民族でも白人少數民族の壓殺下に死ぬここが正義であると斷ずる神が此の



世にあるか。

日本國民よ起て

人類あつて以來の正義の戦はこれからだ。

余は今暫く生存權に關する世界の法制に聽く。

繁雜なる理論は略することして、假りに萬里の波濤に一  
船舶の難破せるものありとせよ、其中には一人の丸ると  
豊滿せる男が波の上に浮袋を抱えて、悠々としてゐる、  
其隣には今將に死に直面せる少年は泳ぐ力も盡き果て、

分秒の間に溺沈まんこせる者ありとせよ、少年は最後の  
勇を奮つて泳ぐ中、豊滿せる男の浮袋を奪つて僅かに死  
を免れた、と同時に其豊滿せる男はそれが爲めに死んだ  
と假定せよ。

この場合少年を何の罪に問ふべきや、かゝる場合世界  
の法制は一樣に其無罪を説きてゐるのである。それは人  
間が死に直面し、彼が死ぬか、吾が死ぬか云ふ緊急已  
むを得ざる場合、己れの生存を完ふせんが爲めにとつた

緊急の措置は緊急避難の原則として無罪であるのである。これぞ即ち國際的に見れば緊急避難の原則に基く自衛權の發動である。

今日本の直面せる現實は何として緊急避難の原則に基く自衛權の發動を要求する生死の境地にあるのだ。即ち現状を打破して生存權を完成せんとするものである。

然し世界には此正論を夙に唱導した先覺の士も少くなかつた。國際間の通商の自由、世界資源の再分配を斷行

することが戦争を回避し恒久平和の確立をなす以所なる事を力説した者もあつた。

然し小數豊滿國は之れを馬耳東風、聽かぬ振りて依然とし資源も通商も嚴として其獨占の扉は開かない、これで戦争を避けやう、現状を維持しやうともがいても其こと自身が矛盾でなくて何であらう。

日本は支那の領土を奪ふといふのではない事は政府の屢々聲明した通りである。日本の欲する處は經濟的有無相

二四  
通の下に共存共榮の新秩序を建設しやうといふ意味はこゝにある。

然るに蔣介石は此日本の差し延べる手を振り捨てて却つて排日、抗日、侮日の限りを盡してゐるのだ、又持つて一聯の國家群がこれを援助して蔣介石の主張を支持してゐる現状にある。

日支の戦争が世界動搖と一環の聯關關係にある事はこれによつて明瞭であらう。

重ねて言す日本は生存權を確保する爲めに戦ふのだ、日本は頑迷不靈なる國民政府を倒して東亞民族の協力の下に共存共榮の新社會を建設せんとする新秩序を目標として必死の戦を戦ひつゝあるのだ。

### 三、援蔣第三國の過去を省みよ

滿洲事件、支那事件を通じて、世界の一部には日本を誣ゆるに帝國主義、侵略主義の國だといふ、然らば敢て

問はねばならぬ。

そうゆう第三國の過去はごうだ、侵略主義國の呼稱は、  
其のままそれ等の國に返上せねばなるまい。

中世以後歐洲諸國の世界分割、勢力範圍の爭覇戰は果  
してなくくり廣げられ、アジア、アフリカ、アメリカ大  
陸に亘り其寸土を餘さぬ爭奪は行はれたのであつた。

東洋方面に着目したのは今を去る四五百年の昔である。  
ポルトガルが支那の澳門を占領したのが約四百年前、其

後スペインがフィリッピンを占領し、オランダは印度  
及東印度を領有したがその老衰と共に遂に英國の爲めに  
とつて代られた、それが今日英國財政の寶庫印度である。

支那に對しても人道問題として後世に其史實は殘る阿  
片戰爭の結果として英國は香港を奪ひこつたのが今から  
百年前の過去である。それが現在の在支英國權益の總支配  
的根據地となつて援蔣行爲の謀略基地である。

剩へ英佛は協力して再度廣東、上海、天津、北京を攻

略し所謂天津條約、北京條約を締んで、約十ヶ所の開港を迫り、居留地を設けて地外法權をこし、政治的、經濟的に極東に蹠踞する嚴然たる不滅の根據地をうち立てたのである。

かゝる過去を持ちながら侵略國は自分でない様な顔をしてゐる厚顔さには餘りにもあつかましいではないか。

這般の天津問題で散々日本側に毒づく英國側はよろしく自國の過去に於ける支那侵略史を再檢討すべきである。

一面北方に於ては、其境界線に一寸の土地も苦情の種子にするロシヤの過去はごうだ。

清朝時代の支那内亂に乗じて黒龍江の沿岸より沿海州の一帶を占領し、ウラヂオストツクを以て太平洋進出の根據地としたのが今から八十年の昔である。

佛蘭西はごうだ、安南、交趾支那、カンボチャ等、印度支那を征略して之れを領有した、今は海上交通上援蔣ルートの唯一の海港はこゝにある。

其他支那沿岸主要の地は多くこれ歐洲侵略史の足蹟は  
印せられてゐたではないか。

而して現在はごうだ茫々無限の外蒙、新疆は蘇聯の勢  
力範圍に完封せられ、西藏は英、佛、ソ聯の勢力下に、  
更に近代的特質として支那本土はその重要資源、交通機  
關、關稅、塩稅、何れもこれ借款擔保の名に於て外國監  
理の下にあり、覆面せる帝國主義、侵略主義下に喘きつ  
つある實情である。

これでも猶且つ己の過去に眼を蔽ひ、日本を侵略者と  
なすか、帝國主義者となすか。

觀じ來ればこれ等老獪なる恫喝と懷柔の手練の上に深  
い睡りにねむつてゐる國民政府こそ國を賣るものにあら  
ずして何んである。

其國民の生活はごうだ、世界文化の水準から遙に下の  
方に依然として原始産業國、農業と鑛業、苦力として歐  
米搾取の對稱として悲惨なる動物的生活を續けてゐる事

實は何ぞ見られるか。

それでゐて、歐米諸國は滿洲事變、日支事件を通じて何と言つてゐる、日本は侵略國だ、帝國主義の國だと、否な日本人の中にも、半可通の支那通と稱する者の中にもはいかにも日本が出すぎたことでもしてゐる様に言ふ者もある、歴史に聞け慘虐なる歐米の東洋侵略史を。

而かも日本は領土を取るのではない、經濟的共存共榮の實を擧げる可く努力しつつあるのだ、彼と是とを比較

して其當否果して何れぞやである。

深き睡りにふける國民政府は未だに醒めない、さはれ隣れなるは其支配下にある四億の支那民族である。

#### 四 英蘇は支那から手を引け

世界の少數の人々を擁して、比較的文化の後れてゐる多數の人類に號令し、多數の柔順な人類が少數の人類から搾取を受けねばならぬといふのがアジアの現實である、

苟くも人道にして重んず可くんば、多数の人類を犠牲に供して、小数の人類が繁榮を圖るこいふ極めて不合理な世界の現状は斷然匡正せねばならぬ。打破せねばならぬ。此舊秩序は撃滅せねばならぬ。

支那事變は日支戦争にあらずして、舊秩序に對する日本的義憤の戦びである、舊秩序を固執して已まぬ英、蘇への抗争である。

歐洲は今や大動亂の巷と化せんとしてゐる、此際英國

は對日外交手段をどう向けて來る。何れにして英國は英國自らの爲めに此際支那より無條件に撤退する事が賢明である、これ以上日本を刺戟して敵性を固執する事は臆て波及する處は更に廣汎たらざるを覺悟せねばなるまい。

印度の將來如何沸々として獨立を氣構へる國民會議派の動向は睡れる印度の胎動である、アラビヤの排英はごうだ、アジヤは武者振りたつた反英への烽火を擧げないと何人が保證出来るか、日本を敵に廻して、日支を戦はせ



兩者の疲弊によつて漁夫の利をねらふ英國の注文は今や時代的錯覺だ、日本は徹底的に新秩序を要求する、若し英國にして反省せざる限り事はアジヤ全局に汎ねく反英の氣運は濃化するであらうことを強く警告して置くものである。

又ソ聯も余計な極東の如き抵抗の多い地域への進出は斷然中止せらる可きである。張鼓峰事件、ノモンハン事件は對支援助の一手段でもあらふ、極東赤化の前奏曲である。

らふ、然し、日本はソ聯の行動を黙止する譯には參らなないのである。

又北洋漁業問題北樺太の石油、石炭の利權問題、何れも是れ日露戦争の結果による幾多英靈のこもる重大なる權益である。

元來樺太は日本の領土であつたことは史實によつて明かである。それ許りてはない、極東ソ聯領一帯は百三十年の昔、幕府の命によつて間宮林藏が黒龍江の河口を發

見したのであるから黒龍江の地域に對してもロシヤよりも日本の方が先に發言權を持つて居つたというも過言ではない。

然るにロシヤは武力を以つて樺太沿海洲及び其一帶を占領した、更に千島の侵略を企したが、明治維新になつてから千島と日本の領土たりし樺太を交換した爲め完全に樺太を彼等の領土として了つたのである。

現在係争中の諸問題は元を質せば日本の勢力範圍にロ

シヤが侵入して來た爲めに起つてゐるのだ、日本はこれを歴史的に見れば失地回復によつて根本解決し行ふべき筋合のものである。

今アジアに起りこ、ある動搖の眞個の姿は日本は極東に虐げられつ、ある民族を救ひ、舊來の搾取から民族的文化を復活し、生活水準の向上に血みごろの戦を續けつつあるのだ。我利一點の現状維持國に向つて勇敢に宣戦しつゝある神聖戦争である。

四〇  
従つて其規模の大なる點に於て、其包藏する意義の深刻なる點に於て、古來歴史上比類なき大戦を體驗しつゝあるのである。故に國民の戦時態勢も亦從來の生やさしい考へ方であつてはならないことは事の重大なだけに一段の覺悟と緊張とを要する所以である。

### 五 國民はどうすれば好いか

最近歐洲大戦の本格化と共に、英國は援蔣態度を放棄

するであらふとか、ソ聯との間に成立せる停戦協定によつて日ソ間の平和が来るであらふとか可成の樂觀論が擡頭して來た、然しそれは大きな誤りである。

凡そ戦争の決論は武力戦、經濟戦、思想戦、この三つの要素が完全に備はらなければ最後の勝利のない事は第一次歐洲大戦の獨乙の實例が何物よりも雄辯に物語つてゐる、今日までの所武力戦は勝つてゐる、然し經濟戦、思想戦はこれからだ同時に蔣介石の狙つてゐる核心も實

ここにあり、日本は更めて自己の姿を再検討せねばならぬ、冷厳沈着に深く考へねばならぬ。

經濟戰に於ける用兵、作戰の妙は武力戰と同様其運營の重點は人にある、然るに、日本の戰時態勢の重大なる缺陷は官僚獨尊の傾向イヨク出で、イヨク其弊害の深刻なることを見逃してはならぬ、戰時經濟統制はさうだ單に經驗がなかつたからといふやうな單なる申譯けに耳を藉して苒苒このまゝにして置く譯には參らない。

それは經濟戰の前途に深憂を禁じ得ないからだ。大體官僚組織は明治時代の經濟、産業の幼稚な時代に之れが監督行政の役割を以つて生れたものである、機械文明の進歩と共に自然産業經濟の分野は複雑廣汎となり、産業的經倫は民間達識の士に俟たねばならなくなつて來て、官僚の指導を受けるどころではなく、官僚が指導されてゐる現實の實相である、被指導者が指導者を机上計畫によつて生ける産業經濟を統制せんとする所に今日の大きな矛盾。

盾があり、危険がある。試みに現状に見よ、電力問題は如何、今日あるは夙に議會の深刻なる警告があつたでないか、電力不如意の背後に石炭不足、資材不足がある、其のまた背後には交通機關港灣施設の不備がある、何れも今日あるは議會の論議に明かではなかつたか、議會即ち民間の經倫を輕視した結果である事を深く反省せねばならぬ。成る程官僚は修學中の秀才を集めてゐる。然し、世の生きた動體の中に切磋琢磨したこともない、學園から一

擧に役所の机に育ち、一國産業の有機的吸呼の中に吾を没入した生きた學問は全然體得して居らない。そこに生きた經倫の産まれやう筈はないのである。

國民經濟の運営上、對症的机上論は上手だが、事態を打診して豫防的、準備的工作を施し得ない。無經倫の後からは、必要以上の犠牲を大にし、經濟的疲勞は年々共に加る一方である。生産擴充計畫はごうした、物動計畫はごうする。而して各省各局其權限に相剋し、統制の破

綻は隨所に曝露しつゝあるではないか。かかる間に日本の經濟をどこへ持つて行くのだ。此重大なる經濟戰爭に必勝を期せねばならぬ秋である、斷じて此まゝに放任する譯には參らない。殊に聖戰二ケ年有余、第二次世界大戰を豫想せらるゝ將來への對策として更に重大なる財政、經濟各般に亘る革新政策を斷行せねばならぬときに際會し官僚獨善の現機構を先づ以て大改革を斷行してかゝらねばならない。

元來政黨を疎外し、事毎に壓迫これ努めて來たところが最近官僚跋扈の端をひらいた原因である。成る程過去の政黨に罪無しとしない、然し今は全く改善せられ銳意國政に奮闘してゐる事實に對し世間は冷靜に見直さねばならぬ。

殊に政黨員は國民の裡からソレ／＼の長所を持つた所謂生きた社會的動態の中から選ばれ來てゐる、其經倫は机上の空論の遙かに及ばざる長所を發見するであら

ふ。凡べては經驗と見透しと力と腹で鍛上げた練達の士の多數がある。それ等の有能の士は政黨の名に於て陳外せられ、外様扱をなしつゝあることは戦時最も必要なる人材總動員を要するの時これ程不自然な話はない、これ程不經濟なことはない。公正嚴肅に現代政黨觀に訂正を與へよ、現状は一時の昂奮によつて慥かに行過ぎてゐる事實を認識せねばならぬ。第二段階たる經濟戦は積極的に政黨を尊重し、民間達識の士を簡拔擢用して經濟戦に

對處するの必要が切である。

さはあれ、官僚は秀才を集めて机上に空論し、各省相剋小田原評議に日を送る間に社會は著しく變化し、世界は眼まぐるしく轉變してゐる。國內態勢、國際の大變局、思へば天下有識の士以て現状を何と見るや。

## 六 日本は何處へ行く

獨蘇不可侵條約を契機として日本は自主獨往の外交方

針に還つた。

五〇

對英媚態元より排すべし、同時に對獨媚態亦排すべし。要は當面の目標として一意支那事變の處理を第一義とし、新興支那の建設に専念することが、聖戰有終の美をなす所以である。従つてこれに協力する第三國とは緊密なる關係を結ぶ可く之れに防害を加ふる如何なる第三國に對しても斷乎排撃の手を下すことは當然である。

然し、日本國民は當面の急に没入して國策の大本を忘

れてはならぬ。曰く小數民族の資源獨占の打破、虐げられたる民族の開放、これぞ八紘一字の大精神に基く日本帝國の行く可き道だ。

勿論其途は遠く永い、同時に劍難の山は頗る多い、吾人は深く期する處がなければならぬ。

余は端的に主張する『日本は當分北に守り、南へ延びよ』と、

南國の夢暖かな處女地へこ日本民族の發展を期せねば



ならぬ、雪と熊この北國ではない、鐵、石炭、ゴム、一切の非鐵金屬、限りない穀類、果實、地上の富源を藏するこの方向へと云ふのである。

南國の總面積三百八十一萬方キロ、日本本土の十倍である。其中開墾されたのは僅かに、二十萬方キロに過ぎない、日本内地なみに開墾すれば三倍近くになる。人口は至つて稀薄で、此の上一億以上の人口を吸收する余力がある。

もしそれ濠洲、ニューシイランドに於ては面積七百九十萬キロ、日本本土の二十餘倍、而して其人口僅かに八百萬、もし南洋なみに人口を入れるなら二億三千萬人、英領マレーなみに入れれば四億六千萬人を養ふに足るのである。

南國は合計すれば面積實に一千七十萬方キロ、日本の三十倍になる。然るに現在人口僅かに一億二千萬人であるから如何に少く見ても四億や五億の人口は吸收され得

るのである。

五四

この大自然を持ち、千古の沃野が人類の開拓を待つてゐる、然るに少數の獨占國が有色人種入る可らずとの看板をかゝげてゐるのだ。剩へ支那への販路さへ防害をなしつゝある。

今將に死活の境地に喘ぐ國への生存を否定しつゝある持てる國の現獨占態勢は果して人道的であるか。

これ等未開の領土の人類を搾取し、己れ獨り豊滿なる

暮しをなすものが正義の國か、これが果して世界平和への道であるか。

吾々は有色人種の名に於て、廣く人類の名に於て人道と平和の爲めに神の名に於て豊滿國への抗議を提出するものである。

余は重ねて言ふ、この廣大なる地域、この未墾の處女地は人類の開拓と幸福と生活權と平和の爲めに待つてゐるのだ、日本は生きんが爲めに、而して虐げられつゝある民族の開放の爲めに戦はねばならぬのだ又而かもこれを

五五

397  
288

五六

拒み依然として原住民族の壓迫と、有色民族を排斥する  
國あらばこれぞ帝國主義者であり侵略國であり、貧慾飽  
くなき人類の敵である、人道の名に於て許し難き罪惡で  
ある、日本は嚴然として現状を打破し、此最高目標に向  
つて一路邁進せねばならぬ。日本の行く手は無限の希望  
に輝いてゐる、同時に相當長期に亘つて戦ひ抜くのだ、  
持てる國日本建設の爲めに、アジア文化の復興の爲めに  
人類の正義を確立する爲めに。

昭和十五年一月十日發行

本所區石原町一ノ一八

發行所 立憲民政俱樂部

著者 山田竹治

本所區厩橋一ノ三二

印刷人 根本忠藏

終

